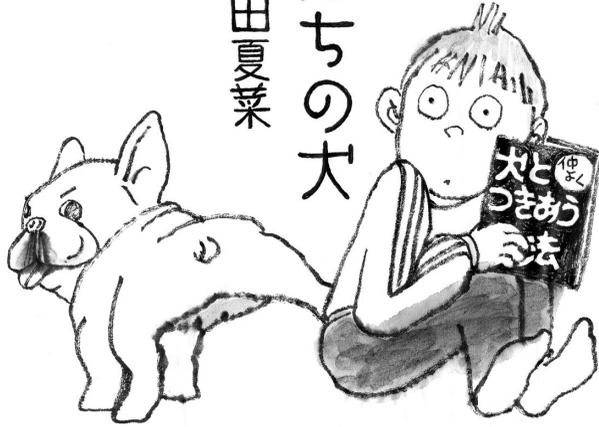


ぼくんちの犬

安田夏葉



剣持晶子・絵

歯医者さんの帰り道。ママとうらら山の近くを歩いてたら、何やらへんな音が聞こえてきた。

「ブヒッ、ブヒブヒッ」

なんだろ。まるで、ブタの鳴き声みたい。

「イノシシでもいるのかしら……、まさかね」

ママが不安そうな顔して、音のする方を見ている。その音は道からちょっと奥に入った、松の木の根元から聞こえてくる。

おそろおそろ近よってみて、ぼくとママは、あっと声をあげた。ブタみたいな顔をした動物が一匹、松の木にしばらくつけられてたんだ！ 木のみきに背中をつけてお腹を外側にして、長いひもでグルグル巻きにされている。まるで海ぞくにつかまった人が、船のマストにしばられているみたい。赤いしたの先を出して、苦しそうにブヒブヒ言っている。

「これ……、犬だわ。よくわかんないけど、フレンチブルドッグっていう種類じゃなかったっけ？」
と、ママが言った。

「ほんとだ。よく見ると犬だね」

でも、へんな犬。鳴き声も、ベージュ色の太めの体も、ぺしゃんこの鼻も、ブタみたいなんだけどな。しかも、頭のとっぺんがハゲになってるし。

「これはハゲじゃないっ。わざとそったんだわ。何てこと！